



「自分のイチオシは『中々』^{なかなか}さんの生ダコ刺しっスね。一番うまいっス。」朝霞に帰ってきた時は必ず行くという。屈託のない笑顔で話す大栄翔関は、鬼気迫る表情で激しい突きを繰り返す彼とは全くの別人だ。

大相撲令和3年1月場所千秋楽。

勝てば初優勝が決まる重圧の中、大栄翔関は土俵入りから堂々としているように見えた。しかし、前日の夜は取組のイメージが頭をめぐり、なかなか寝付けなかったという。が、鋭い立ち合いから、相手をのど輪でのけぞらせると、回転の速い突き押し相撲で一気に勝負を決めた。その間わずか5秒。見事優勝の証である賜杯をその手につかみ取った。

相撲界には「3年先の稽古」という言葉がある。明日の勝負に勝つためではなく、3年先に成果を出せるように毎日稽古をする、という意味だ。小学1年生から相撲を始めた大栄翔関は、何度も負け、悔しい気持ちを味わってきた。「相撲は小さい頃から自分を精神的に成長させてくれた。」と話す、先の目標に向かって努力し続けることは並大抵のことではない。



だいえいしょう はやと
大栄翔 勇人

所属：追手風部屋

年齢：27歳

朝霞市出身。朝霞第四小学校、第一中学校に通う。小学1年生の時、朝霞の相撲クラブで相撲を始める。



自分の中で強く思えば、必ず夢は叶う。

弱くて、たくさん挫折があった。

何度折れても、そのたびに思いを強くする。

埼玉栄高校の相撲部は何人ももの関取を輩出する強豪である。大栄翔関の在校時、最大の目標はインターハイだったが、まずレギュラーへの壁があった。そのためには、ひたすら稽古することしかなかったという。

過去を思い出す大栄翔関の言葉の節々に、血のにじむ努力を続けてきた光景がうかがえる。高校3年時に見事インターハイ団体2位、個人3位の成績を収め、大相撲の世界に飛



び込んだ。だが、プロの世界はやはり、甘くない。はるか格上の元三役との取組もあった。取組前に、強い相手だ、怖い、と思ってしまうと絶対に勝てなかった。その時は気持ちが弱かった。

「たくさん挫折しても、自分の中で絶対に目標を叶えると強く思えば、必ず叶う。」腐らず、何度折れても地道に稽古を続ければ、必ず目標にたどり着く。大栄翔関は、自分の人生の中で、それを実践してきた。今では毎場所全勝して優勝しようと強く思い、土俵へ向かっている。

大好き。朝霞

「地元、朝霞に帰ってくると気分がアガります。」今でも地元の友達と朝霞で会い、昔話に花を咲かせている。



高校時代から寮に入った大栄翔関は、朝霞に帰ってくるたびに新しい発見をするのが楽しみ。変わっていく街の中で、変わらない地元愛。

「朝霞の子どもたちには、子どもの頃はしっかり遊べるだけ遊んで、お父さんお母さんの言うことを聞いてほしい。そして自分の夢があるなら、その夢を強く持って最後までやりきってほしい。思えば絶対に叶う。」

「可能な限り現役をやりたい。色々な人に自分の相撲で元気を与えて感動してほしい。」

テレビで見られる子どもたちが、大栄翔みたいになりたい！と言ってくれる。大栄翔関が作った電車を、朝霞のみんなが追いかけていく。大栄翔関が思い描くその未来へ向けて、今日も明日も稽古を続けていく。

頑張れ頑張れ大栄翔！
プッシュだプッシュだ大栄翔！

